

【熊本 S. J. C. D. 例会 抄録】

演題 中等度慢性歯周炎の 9 年経過症例

演者名 松下哲也

日付 2013 年 8 月 27 日(火)

Keywords

- 1) 動機づけ
- 2) 初期治療
- 3) メインテナンス

抄録

患者は 52 歳女性で、初診は平成 15 年 1 月、主訴は右上 6 番に穴が開いたということで来院。診断は中等度(一部は重度)の慢性歯周炎で、カリエスや要根管治療歯も多かった。咬合は Angle II 級で一歯対一歯の咬合だった。

歯周治療は、最初の一か月で動機づけが成功するかどうかで治療の成果が決まる。動機づけが、成功したかどうかは、PCR が 20%台になったかどうかで判断する。

その後、縁上歯石、縁下歯石を取り、再評価をして垂直型の骨欠損や分岐部病変には歯周外科を行うのが通例である。

その際、できる限り、歯根面のセメント質を傷つけないでバイオフィルムを定期的に除去する「痛くない」「悪くならない」ことを目指した治療様式を心掛けている。

今回の症例は、フリーランスの上田幸子さんと歯周病学会認定歯科衛生士が担当し、天然歯を長期に保存することを目指した。

そして、初期治療終了後に、右下 6,7 番の欠損部には、インプラントを用いて、臼歯部の咬合支持を確立し、最終補綴を装着した。

治療期間は 1 年 6 か月かかり、その後メインテナンスを行い、プラークコントロールと咬合のチェックと咬合調整を繰り返した。メインテナンス期間は、9 年経過している。

諸先生方のご意見、ご指導を、宜しくお願い致します。